

## 秋到来♪

夏の暑さも一息つき、秋の訪れを肌で感じる今日この頃。秋といえば「食欲の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」など、いろいろな事をしたくなります。みなさんにとって、「〇〇の秋」といえば何でしょう？ 私は今年も「食いしん坊の秋 到来!」となりそうです。

コマガタがおすすめる

# 商材のご紹介 vol.3

## 〈今月の商材は〉 スペシャルティーズ BOX



種類も様々!

スペシャルティーズとは五條製紙(株)のパール調または、メタリック調特殊紙のブランドネームです。紙の表面にパール塗工、アルミホイル、アルミ蒸着PET、フログラムフィルム貼合、アルミ蒸着転写加工を施し、多様なパッケージ、グラフィックデザインに対応できる用紙として様々な用途で使用されています。高級な紙だけに価格もかなり高くなります。1枚当たり100円くらいから200円を超えるものまで様々です。「コストを抑えるため」と「今までの印刷技術の蓄積」で、当社では、UV印刷ではなく、通常のオフセット印刷で印刷しております。絵柄(デザイン)に応じて「ニス」や「PP貼り」で表面コートし、キズや指紋防止に注意しております。通常のオフセット印刷のメリットとしては、UV特有のニオイが出ません。デメリットは、インキが乾くまでに時間がかかることです。「白」を印刷し、その上に印刷をかける場合は2日かかります。ただし、当社は製版から加工まで一貫生産しておりますので、印刷で1日遅れても他の工程で十分フォローすることができます。



アルミ No.211

寸法: 790(780)×1090  
アルミ10μ艶消し シルバー  
艶なしのシンプルなシル  
バーの紙です。



ホログラム No.761

寸法: 650(640)×950  
特色ホログラムフィルム貼り(シムなし)  
正面から見ると緑色ですが、傾  
けてみると青や紫色に変化する  
特殊なホログラムの紙です。



ホログラム No.702-N

寸法: 810(800)×1090  
ホログラムフィルム貼り  
傾けると様々な色に見えるキラ  
キラしたホログラムの紙です。



特殊加工 No.901

寸法: 790×1090  
キラキラした細かなラメが  
入った特殊な白い紙です。



特殊加工 No.903

寸法: 790×1090  
キラキラした細かなラメが  
入った特殊な黒い紙です。

## スペシャルティーズ BOX 困り事解決

### 1 イメージ通りの色(特色)が出ない!

当社は印刷技術者が特色インキを調整しておりますので、お客様のご希望の色を用紙に応じて再現することが可能です。

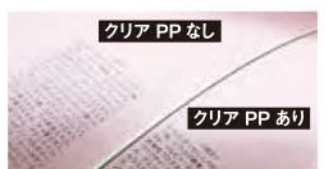


### 2 ヌキ・ノセ・白版のデザインに合ったデータがうまく作れない!

スペシャルティーズのような発色や質感の良い用紙は、その良さを生かして印刷することが大切です。デザインに応じてヌキ・ノセ・白版の適切な使い方をアドバイスいたします。

### 3 PPをラミネートすることで更に高級感がUPします!

スペシャルティーズは光沢の良い用紙が多いですが、印刷した部分はインキ皮膚のせいで、ややマット調の仕上がりがとなります。そこでクリアPPなどで光沢を出すと用紙本来の質感とインキの透明感がでて仕上がりがグレードUPします。



スペシャルティーズの印刷に困っていることや相談したいことがある方はお気軽にご相談ください。





坂角総本舗様のえびせんをお土産にいただきました。  
パッと見た瞬間に、明らかに印刷の発色が違うことが分かります。

外側のスリーブは、特色 2c+ マットニス。4cカラーでは、この色（薄茶と濃茶）を安定して出すことは難しいです。

中身は、「海老」と「帆立」です。箱の真ん中と側面にそれぞれ、赤と黄色のラインが入っていますが、これもそれぞれ特色です。4cカラー + 特色 1cの合計 5c+ マットニスの印刷です。この赤と黄色の特色も目を引きます。

スリーブをはずすとこんな感じです。中に入る箱のデザインがいいので、隠すのはちょっともったないと思いました。  
(駒形 和彦)



## ポスターは四隅をとめてまっすぐ貼るもの？

そんなの当たり前じゃないか、と思われるかもしれませんがよく考えたらそんな決まり聞いたことないと思うこと、世の中に沢山ありますよね～。不思議じゃありませんか？なんでそうなっているんだろうって思ったりしませんか？さて今回みつけたおもしろいポスター。そんな前置き不要、とにかくこのアイスクリームのポスターは頭が堅い人の既成概念を見事に吹っ飛ばしてくれます。

<http://www.fubiz.net/2012/08/28/ice-cream-posters/>

こういう発想は見ていて爽快です（笑）ポスターを貼る際に、紙が巻いたりして貼りにくいなあという経験。それすらも、前向き補正してくれるというなんともポジティブなデザイン…。ぐるりと巻かれた部分をコーン見立てるあたり、そんなお茶目な観察眼をお持ちの方。技術が進化して、いろいろなことが誰にでもできるようになると最後に価値として残るはやはりアイデアの世界だと思う一作品です。

最近デジタルだ、紙だ、と媒体そのものの保守に走ったり、どういうわけか両極端の意見を対立させて必要性をそこからひねり出そうという話が目につきます。保守的というよりも、なんともマイナスな考え方です。どちらかではなくこれからも両方必要と考えます。なぜなら両方持っている「いいところ」が違いますしね。単純に良いところを潰す必要がありませんし（笑）。まずはその媒体の良さを見つけることから。必ずそれはあるはず。時として扱いづらい特性としてあげられる紙の反発だって、視点を変えればかわいらしいアイスクリームのコーンに大変身するように。

決まりきった考え方に疑問を持つことと、変化を受け入れるちょっとした勇気と柔軟性。これが印刷業界これから大事なのではないのでしょうか。〈遠藤〉



▲表面がアイスで裏面がコーンになっています。加工も施してあっておもしろい発想ですね～！